

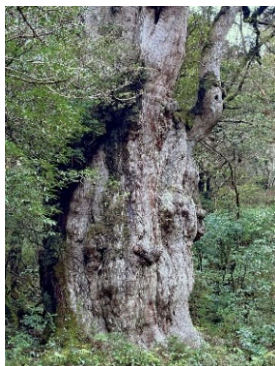
世界自然遺産「屋久島」の特徴

植生の垂直分布、ヤクスギ天然林の景観

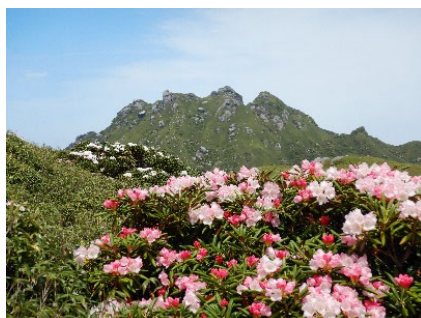
- 日本列島の南に位置する屋久島では、海岸沿いの亜熱帯植物、低標高域のスダジイなどの照葉樹林、スギを中心とした温帯性針葉樹林、標高2,000mの山頂付近の冷温帯性ササ草原や山岳湿原、低木林からなる連続した植生の垂直分布を一つの島の中で見ることができる。
- 屋久島の年間降水量は8,000mmを超えており、湿度の高い気候でも腐りにくい「ヤクスギ」と呼ばれる樹齢1,000年以上の天然スギが多く生育しており、高湿度の環境に適応したホソバハグマ等の溪流植物や大木に着生している植物とともに、世界に類を見ない特異な森林景観が見られる。

屋久島の景観

ヤクスギ天然林のほか、高標高地の湿原や山岳、美しい川や滝など多くの名所が存在。



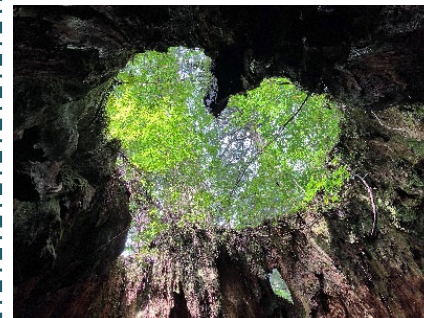
縄文杉



奥岳とシャクナゲ (永田岳)



山岳湿原 (花之江河)



ウイルソン株



千尋の滝

※世界遺産区域外

多様な植生の垂直分布

ササ草原、山岳湿原、低木林(ヤクシマシャクナゲ等)
温帯性針葉樹林(スギ、モミ、ツガ)
照葉樹林(シイ類、カシ類)
亜熱帯植物(ガジュマル、メヒルギ)



ヤクシマリンドウ
(山頂付近)



オオゴカヨウオウレン
(中〜高標高地)



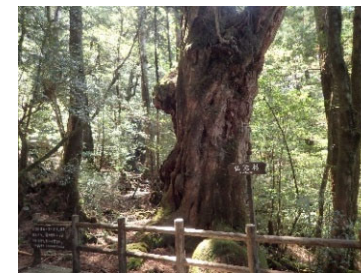
メヒルギ
(海岸沿い)

屋久島自然休養林(世界遺産区域外)

「荒川地区」(通称：ヤクスギランド)と
「白谷地区」(通称：白谷雲水峡)では、
ヤクスギを含む屋久島の特徴的な森林を
容易に鑑賞できる。



苔むす森

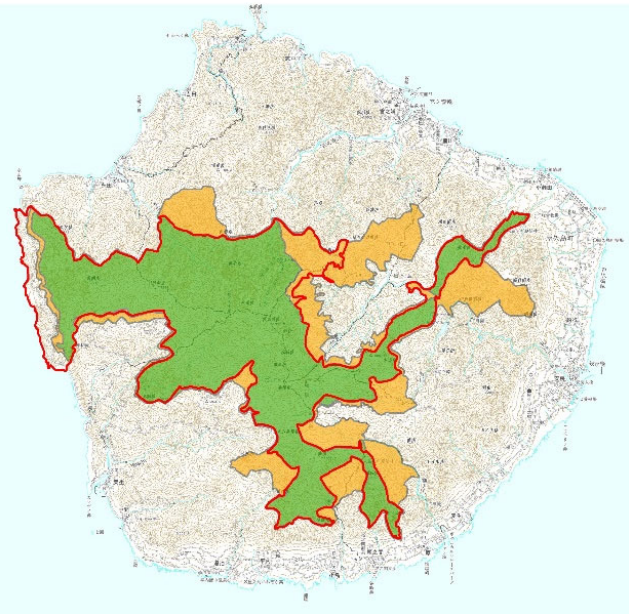


仏陀杉

「屋久島」における林野庁の取組

- 1992(H4)年3月、屋久島全域の約30%、屋久島の国有林野の約40%に当たる約1万5千haに、「森林生態系保護地域」を設定。
- ヤクスギをはじめとする貴重な森林生態系をモニタリングしながら適切に保護・管理。

世界自然遺産地域と国有林野 (屋久島森林生態系保護地域)



遺産地域面積：10,747ha
(すべて核心地域)

遺産地域における
国有林野面積：10,260ha

森林生態系保護地域面積
保存地区： 9,600ha
保全利用地区：5,585ha

各種モニタリング調査

- **垂直方向の植生モニタリング**
島内を5地域に分け、植生の変化と階層構造の変化をそれぞれ5年毎に把握
- **気象モニタリング(雨量11箇所、温度3箇所)**
継続的にデータを蓄積し、森林生態系への影響に関する研究に資する
- **著名ヤクスギ等の樹生診断と回復措置**
登山者の踏圧等による樹根の露出や土壌の踏み固め等が樹生に与える影響を診断し、必要があれば樹勢回復措置を行う



樹木医による大王杉の樹生診断

- **湿原保全対策(花之江河、小花之江河)**
近年の地下水低下(乾燥化等)により、その遷移が短期間で顕著化している湿原において、流水・水収支等について調査の上、対策を実施



花之江河の保全対策(堰の設置)

ヤクシカによる食害対策

- 採食圧による森林の植生や希少植物への影響
↓
- 2010(H22)年に研究機関及び行政機関による「ヤクシカワーキンググループ」を設置
- 林野庁では以下の取組を実施
 - ①ヤクシカの生息・移動状況調査、植生モニタリング調査、ヤクシカ嗜好植物試験
 - ②ヤクシカの捕獲、植生保護柵の設置
 - ③協定による地元猟友会へのくくりワナの貸出し



ヤクシカによる食害の様子

森林環境教育活動

- 地域の関係機関と連携し、島内の小中学生、高校生を対象とした森林環境教育活動を実施。地域の未来を担う人材の育成に寄与



生き物の観察(小学校)



地杉コンテナ苗の作成(中学校)